



施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602

10月の休館日：4月、12月、18月、25月

★★★ 注目のイベント ★★★

11月5日(金) 19:00～ グランドホール
ブロードウェイ・ミュージカル・カンパニー
ニューヨーク、ロンドン、パリなどで活躍するトップ・アクターたちが、この秋、日本に集結豪華ラインナップでつづる、魅力のミュージカル・ハイライト。

〈予定プログラム〉
サウンド・オブ・ミュージック
レ・ミゼラブル
シカゴ
雨に唄えば ほか

指定 S席 6,500円、A席 5,500円
【チケット発売中】



11月14日(日) 14:00～ グランドホール

平成22年 松竹大歌舞伎

恐妻家の夫と嫉妬深い妻という題材を面白く織り交ぜ、品格ある舞踊が見どころの『身替座禅』ほか2作品を豪華出演者で上演！お見逃しなく！



一、浦島 長唄囃子連中
二、泥棒と若殿 一幕五場
三、身替座禅 常磐津連中
長唄囃子連中

指定 一等席7,000円、二等席5,500円、三等席3,000円
【チケット発売中】

10月3日(日) 14:00～ メッセホール

松竹歌舞伎プレセミナー

自由 500円

10月11日(月) 15:00～ グランドホール

ドラマチックコンサート NHK大河テーマ曲&運命

指定 S席6,000円、A席5,000円 【チケット発売中】

10月23日(土) 15:00～ グランドホール2階ロビー

ロビーコンサート

オーケストラ・アンサンブル金沢のメンバーによる木管のアンサンブルをお楽しみください。

自由 500円、中学生以下無料

11月28日(日) 14:00～ エコーホール

金亀亭落語ライブvol.7 柳亭市馬・柳家三三

指定 一般3,500円、SP価格2,000円

無料携帯メール会員募集！！
イベントにより、会員限定の特別価格情報を配信！
※右記のQRコードからご登録ください。



チケットのお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)
インターネットでも購入いただけます。http://bunpla.jp/

彦根城博物館

☎22-6100 FAX 22-6520

9月の休館はありません。
※10月26日(火)～同28日(木)は展示替えのため、展示室を一部閉室しています。

開館時間 8:30～17:00 (入館は16:30まで)

10月1日(金)～同26日(火)

「五百羅漢のお寺

—天寧寺の歴史と美術—

五百羅漢を安置する寺院として知られる曹洞宗 万年山天寧寺。藩主井伊直中の帰依により紡がれた歴史と受け継がれた什物を紹介します。



五百羅漢のうち(天寧寺蔵)

ギャラリートーク

「五百羅漢のお寺—天寧寺の歴史と美術—

10月2日(土) 14:00～15:00

解説：本館学芸員 高木 文恵

※当日、館内講堂にお集まりください。

観覧料が必要です

10月29日(金)～11月30日(火)

戦国「よみがえる関ヶ原合戦

—関ヶ原合戦図を読む—

天下分け目の戦いを描いた関ヶ原合戦図。現存する甲冑や旗、諸將の活躍を伝える軍記物を交えて、合戦図を読み解きます。



関ヶ原合戦図(部分)

ギャラリートーク

「よみがえる関ヶ原合戦

—関ヶ原合戦図を読む—

10月30日(土) 14:00～15:00

解説：本館学芸員 野田 浩子

※当日、館内講堂にお集まりください。

観覧料が必要です

ほんものとの出会い

—常設展示の名品—

常設展示「「ほんもの」との出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に80点あまりを展示しています。

10月1日(金)～同26日(火)

黒漆塗貝塗込鞘大小拵

刀を収める鞘の部分に薄く加工した大きな貝を嵌め、黒漆を塗って研ぎ出した、大胆な意匠の拵



常設展示の名品

井伊直政画像(彦根城博物館蔵)



井伊家初代直政(1561～1602)が雑誌やテレビなどで紹介される時、井伊家伝来品で現在彦根城博物館の所蔵となっている肖像画(左絵)がよく使われているのを目にします。直政のイメージの形成には、本肖像画が大きく寄与しているといえるでしょう。

この画像は、上部に臨濟宗妙心寺派の傑僧、鉄山宗鈍(1532～1617)の落款のある賛文が記されていることから、宗鈍没年の元和3年(1617)までの制作と考えられていますが、細面で凛々しい顔つきは、生前の直政の面影をよく伝えていることでしょう。

画像の旧表具の裏に、「天寧寺蔵」と彫られた印が捺されています。天寧寺は、彦根インターチェンジにほど近い里根町の曹洞宗寺院で、井伊家11代直中(1766～1831)によって建立されました。なぜこの寺が、直政の像を所蔵していたのでしょうか。

享保年間(1716～1736)ごろに成立した井伊家の家譜「井伊年譜」には、鉄山和尚語録にある賛文をもつ直政画像が、宗徳寺に伝来するとの記事があります。ここに記載された画像が、本稿で紹介している直政画像にあたると考えられます。

時代は下って江戸時代後期、宗徳寺は大きな転機を迎えます。井伊直中によって、町中の狭い地から広く切り開いた里根山に移されたのです。そして、万年山天寧寺と山号および寺号も改めました。ただ、移転後すぐに変えたわけではなく、しばらくは宗徳寺を名乗っていたようです。

文政2年(1819)に客殿、庫裏、

宗徳寺とは、井伊家2代直孝(1590～1659)が、直政生母の永護院蘭庭宗徳大姉(～1585)の菩提を弔うために、彦根城下の上敷下(現 京町三丁目)に建立した。久昌山宗徳寺のことです。寺の什物を調える中で、ゆかりの直政の肖像画も加えられたのでしよう。

明暦2年(1656)には、井伊家代々の菩提寺である清涼寺の開山、愚明正察が隠居して宗徳寺に入り、同寺は以後、清涼寺住持の隠居寺としての機能も担うこととなりました。

今回採り上げた直政画像は、宗徳寺から天寧寺へと、大切に受け継がれた什物であり、寺の変遷を見守り続けた証人であるとも、いえるでしょう。

ときの玉手箱

博物館からのメッセージ



第170回